



布部地区のイチオシ!



分け隔てない博愛の心で
～尼子・毛利の慰霊祭「山中祭」～



▲令和4年度は加納美術館でトークイベントも行われました。
◀山中祭について話す布部交流センターの小藤昇館長(中央)。没した両軍を慰霊することから尼子・毛利どちらの家紋も掲げています。

453年前の戦国時代、布部要害山周りで、尼子軍と毛利軍の大きな合戦がありました。「布部山の戦い」と呼ばれる合戦で、尼子・毛利両軍あわせて405人の死者が出たと伝えられています。

そんな歴史が残る布部地区では、亡くなった両軍の霊を慰める「山中祭」が開催されています。山中祭は、107年前に布部で活動していた青年団により始まった行事で、慰霊祭と陣がゆ(戦の前に食べられていた小豆の入ったおかゆ)の会食を行っています(令和4年度は陣がゆ会食は中止)。

山中祭は長い間、合戦のあった2月14日当日に、要害山まで登って開催していましたが、雪の積もる時期におかゆの材料を抱えての登山は負担がかかっていました。10年ほど前からは、日曜日に実施日を固定し、布部交流センターでの開催に。慰霊という目的を第一に、時代に合わせて形式を変えて続けてきました。

山中祭や興福寺(※)、「平和のつどい」など、布部地区では分け隔てなく平等に人々を大切に思う気持ちがかもった行事や建物などが集う地となっています。

(※)合戦の後、興福寺の本尊は毛利が治めていた土地へ渡っており、大切にされていました。それに感銘を受けた加納莞菴は荒れていた寺再興への努力をし興福寺は尼子・毛利共に供養する場となりました。

編集後記

安来市の人口と世帯数 R5.2.28現在

人口合計 / 36,278人
(男:17,466人 女:18,812人)
世帯数 / 14,221世帯

▼SNS投稿していた市のプロモーション動画シリーズの完結編を2月24日に投稿しました。ぜひご覧ください(左下2次元コード・インスタグラムの動画はインスタグラムで1万回再生突破。さまざまな人に応援いただいた結果が実ったと感じています(岩))
▼平安時代に精進料理として羊の肝を使った料理を再現したのがルーツ(諸説あり)の「清水羊羹」。市内では深田豊隆堂、黒田千年堂、西村堂、遠藤瑞泉堂の4社が製造・販売しています。それぞれ材料の配分や製造工程が異なるため、味や食感が異なります。伝統を守り続ける安来の名菓を食べ比べてみませんか(一)



●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等については、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。